

バリアフリー関連の最近の動向

1 高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例（東京都建築物バリアフリー条例）および東京都福祉のまちづくり条例施行規則の一部改正

東京 2020 大会を契機に、世界水準のバリアフリー基準として策定された「Tokyo 2020 アクセシビリティガイドライン」にのっとり、各競技会場の整備が進展するなど、都内のバリアフリーに対する理解度が深まった。また、令和 6 年 6 月に、「バリアフリー法施行令」が改正され、劇場等の客席に関するバリアフリー基準が創設されるなど、高齢者や障害者のみならず、すべての利用者にとって、劇場等がより安全・安心・快適なものとなることが求められている。これを受け、都は、東京 2020 大会のレガシーとして、すべての利用者がより使いやすい「劇場等の客席」の整備を促進するため、劇場等の客席のうち、車椅子利用者用部分の付加基準を設けることとした。

建築物バリアフリー条例の基準と整合を図るため、東京都福祉のまちづくり条例施行規則も一部改正される予定となっている。

【検討されている付加基準】

項目		基準案（ 赤字：現行基準を強化 青字：新たな基準）
車椅子利用者用部分	① 数	階ごとに座席総数の 0.75%以上 かつ2席以上
	② 配置	2以上を隣接して設置 隣接して 同伴者席を同じ割合 設置
	③ 水平分散（横）※1	2以上 の位置（舞台等を見て左右方向）に 分散
	④ 水平分散（縦）※2	2以上 の位置（舞台等を見て前後方向）に 分散

※1:座席総数401席以上の階を対象 ※2:座席総数1,001席以上の階を対象

【改正までのスケジュール】

令和 8 年 3 月末公布、令和 8 年 10 月 1 日施行

※練馬区福祉のまちづくり推進条例および練馬区福祉のまちづくり推進条例施行規則においても、同様の内容で改正予定。

2 建築プロジェクトの当事者参画の推進について

障害の有無にかかわらず、すべての利用者にとって使いやすい建築物を整備するためには、建築プロジェクトの各段階において施設利用者が参画し、検討・整備を進めることが有効であることから、国土交通省においても、「建築プロジェクトにおける当事者参画ガイドライン」を令和7年5月30日に策定した。また、移動等円滑化の促進に関する基本方針における第4次目標において、「公共建築工事（2,000㎡以上の国等の特別特定建築物に限る。）における当事者参画の実施」を位置づけた。

東京都においても、「当事者参画で進めるユニバーサルデザインの施設づくりハンドブック」を作成し、当事者参画に取り組む自治体を増やす取組を進めている。

【地域福祉計画関連事業】

事業番号 31 区立施設・区立公園のハード・ソフト両面からのバリアフリー化の推進

練馬区においては、練馬区福祉のまちづくり推進条例に「区民の意見聴取」を位置づけ、平成20年度から区立施設・区立公園の新築・改築等の際に区民意見聴取事業を実施している。今年度までの実績は、建築物32か所、公園・緑地16か所である。

意見聴取事業の実施の他、意見が比較的積みあがっている学校や公園において、整備箇所ごとに当事者ニーズや整備の提案等をまとめ、区民意見が効果的に反映されるような仕組み作りを検討している。

3 視覚障害者誘導用ブロックの切欠き設置について

視覚障害者誘導用ブロックは、視覚障害者にとっては安全かつ円滑に移動等をするために必要不可欠な設備である一方、車椅子利用者にとっては、乗り越える際の振動が身体的負担となる場合がある。視覚障害者および車椅子利用者双方にとって、移動に支障のない視覚障害者誘導用ブロックの切欠き設置について検討が始まっている。特に鉄道駅等旅客施設における設置について検討を行い、最終的にはバリアフリー整備ガイドラインへの反映についても検討するとしている。

【切欠き設置のイメージ】



車椅子のタイヤが通れる幅分をあげる。

4 心のバリアフリーの理解促進について

東京都は、令和6年度の「都民による事業提案制度」により、子どものバリアフリーへの理解促進に向け、子どもに人気のキャラクターとコラボレーションした動画を作成・発信することとし、この度、「かいけつゾロリ」シリーズとコラボレーションしたアニメを作成した。

ゾロリたちと一緒にバリアフリーに関するクイズに答えていくアニメ（約3分×4本）が公開されている。バリアフリー設備に関するマーク、点字ブロック、まちの中の段差、バリアフリースイッチなどを知ることができるとともに、譲り合って利用することや適正利用についても考えてもらえる内容となっている。

詳細は資料4-2を参照

【地域福祉計画関連事業】

事業番号 33 ユニバーサルデザインの理解の促進

適正利用についての意識啓発や、ユニバーサルデザインを学べるホームページのコンテンツの充実に取り組み、一人ひとりがユニバーサルデザインや心のバリアフリーを意識し実践できるようにする。

区のホームページからも、東京都の「心のバリアフリー」のホームページにアクセスできるようになっており、コラボレーション動画を区のホームページから見ること